

防災教育を中心とした学校安全総合支援事業の取組について

— 5年間の取組を次につなぐ —

長野県木曾養護学校

1 はじめに

木曾養護学校は、全校児童生徒 30 名程の小規模校であるが、在籍する子どもたちは、北は塩尻市、南は南木曾町と広域から通学している。学校沿革史には、「子どもたちを生活する地域で育てたい」という木曾の人々の長年の願いと運動の結果、木曾養護学校の開校に至った旨が記され、「木曾養護学校協力会（地域有志の会）」は、開校以来毎年環境整備などに協力して下さっており、地区の皆さんの温かさと学校への思いを日々強く感じている。

本校では本事業に過去 5 年取り組み、昨年度「児童生徒を中心に据えた防災安全教育による 5 年間のまとめ」を行った（昨年度報告書参照）。本年度は、これまでの 5 年間の取組を踏まえ更なる取組のあり方を決めだすことにも取り組むことにした。

2 本年度の取組

(1) 小学部の取組

昨年度の反省で、中学部、高等部では、「中学部の地域探索」「高等部の防災ポーチづくり」など生徒が主体的に防災安全学習に取り組む活動を位置付けられたが、小学部の児童にとっての防災安全学習が主体的の段階までは高められていないということがあった。そこで今年度は、県の出前講座「ぼうさいダック」の派遣を依頼（過去 2 年間はコロナ禍のため中止）し、小学部の子どもたちが興味をもって自ら学ぶことができる防災の授業をおこなうことを考えた。

「ぼうさいダック」が登場すると、子どもたちは大喜びをし、「防災ダック」の動きをまね始めた。大雨の時の「うさぎのポーズ」地震の時の「ダックのポーズ」。部の友達の様子も見ながら、自らポーズを取る子どもたち。大雨、地震といった場面に自ら行動する学習に取り組んだ。実施後の反省で、

活動（展開）
○導入のお話 ・地域の実情にあったカードを 4、5 枚選び、「なぜこのような対応行動が必要なのか」という解説をする。
○音楽を使って正しいポーズが取れるようにする。 ・ゲーム：ピアノなどでテンポのよい音楽を流し、その場で足踏みします。適当なタイミングでホイッスルを吹きながらランダムに危険のカードを 1 枚示し、一斉に声を出して対応ポーズをとる。音楽を徐々に早くしたり、子どもたちの周りをスキップするなど変化をもたせると、さらに盛り上がる。
○振り返りのお話



ぼうさいダック

これまで地震の際は「ダンゴムシのポーズ」として学習していたポーズであったので、新たな用語を使う際は子どもたちが混乱しないよう、これまでの学習とのすり合わせも必要であることが明らかになった。

(2) 中学部の取組

昨年度、「自分たちの防災マップを作ろう」という小単元で生徒が自分たちの学習成果を「防災すごろく」（防災マップ）にまとめた中学部では、災害から私たちの生活を守る人に視点を向けた。昨年、大雨により土砂崩れが発生し電車が運休したことを経験した子どもたちは、JRの人たちはどうやって線路を守っているのか知りたいと考えた。そこで、JR 東海木曽福島保線区の方を学校に招き、昨年大雨災害後の復旧作業に昼夜取り組み、早期の運転再開につなげたことを聞いたり、保線に使う機材を実際に見せていただいたりした。運転再開のために作業員が目視でレールや周辺を点検することに使うトロッコのような乗り物に乗ったり、ドローンを使って高い場所から地上の様子を確認する実演を見たりする中で、子どもたちは、自分たちの知らないところで大好きな電車の運行を守る人がいることを知る機会となった。



保線用機材を体験する

(3) 高等部の取組

本年度は、県の出前講座を活用し、県内で発生した最近の災害を振り返り、命を守る行動（避難）について復習をした。高等部では、これまで「防災ポーチづくり」を通して非常時に備える学習をしていたので、避難の際に持ち出す物に自らの学習を重ねて講座に参加していた。

(4) これまでの5年間の取組を次につなぐ（学校防災アドバイザーの関わり）

本校では、次年度の学校の取組を決めだす上で全職員がテーマごとに参加するプロジェクト（木曾養プロジェクト）を組織している。令和5年度を考えるにあたり「防災教育プロジェクト」を立ち上げ、課題・問題点を明らかにし、改善に向けた取組につなげることにした。課題とされた点は以下の通りである。

課題・問題点	理由・具体例
学校安全総合支援事業における5年間の工夫や実践の全体像が分かりにくい。	今までの実践（防災ポーチや防災ダック、煙体験等）が十分に継続されてきていない状況や、当時を知らない職員が増え、活動の存在自体が曖昧な状況がある。
内容の系統性や段階が分からないため、気づいた範囲での活動計画になりやすい。	学級チーフが今までの経験やできそうなことから内容を考えることが多く、取り上げる防災教育の内容に偏りがあったり、警察署見学や消防署見学を各部で行っているが、学年段階から内容が適切であったか課題が残ることが挙げられた。

学校安全計画の内容と5年間の成果との間にずれがある。

学校安全計画に学校安全総合支援事業（防災ポーチや防災グッズ、煙体験等）の取組が反映されてこなかった部分がある。

課題の整理に基づき、これまでの子どもたちと取り組んできた学習内容をプロジェクトでは以下のように整理してみた。資料を基に防災アドバイザー 白神晃子先生（立正大学）小原拓弥先生（県防災危機管理課）から助言をいただいた。

	地域を知る	情報伝達	備蓄・備え	食	避難・避難所生活
平常時	<ul style="list-style-type: none"> 学校周辺の防災マップづくり 防災すごろく ハザードマップ 学校周辺の危険箇所 通学路（冬季）の危険箇所 	<ul style="list-style-type: none"> メール受信状況確認 防災盤（事務室・舎）の使い方講習 	<ul style="list-style-type: none"> 防災ポーチづくり 防災リュックの中身 備蓄品 教室環境点検 安全点検 消防署見学 消火器の場所 非常食・備蓄品の保管場所 	<ul style="list-style-type: none"> 食育講座（災害と食） 	<ul style="list-style-type: none"> 避難経路の確認 集合場所の確認 通報訓練
発生時・直後	<ul style="list-style-type: none"> 蛇ぬけの碑見学 	<ul style="list-style-type: none"> 避難確認名簿の形式 	<ul style="list-style-type: none"> 消火器体験 避難名簿や引き渡し名簿、拡声器等の持ちだし品の明確化 		<ul style="list-style-type: none"> 入浴時 夜間 自由時間 マスク（夜・停電時） 朝活動 部の活動 おはしもち 地震 火災 煙体験
被災後	<ul style="list-style-type: none"> JR線路の災害対応 	<ul style="list-style-type: none"> 引き渡し（返信確認） 引き渡し（電話連絡） 	<ul style="list-style-type: none"> ペットボトルランタン レジ袋で簡易ランタン 	<ul style="list-style-type: none"> 非常食を食べる 	<ul style="list-style-type: none"> 防災グッズの使い方（グラブ購入&使用） 体育館で避難所体験 家庭への引渡し

白神先生・小原先生の助言より

- ・災害時と直後、前後に分けて考えるとよい。
- ・子どもたちの段階を3年ごとの4つの段階で考えると指導がしやすいのではないか（小学部低学年・小学部高学年・中学部・高等部と寄宿舎）。
- ・1つの学習内容を上記4つの段階で3年サイクルを考えると、継続した指導や内容の深まりにつながる。
- ・「子どもたちのどんな姿をねらいたいか」を出発点にして、段階を考えるとよい。
- ・単発のイベント的な指導にせず、各段階で繰り返し指導していくことが大切。

白神先生・小原先生の助言を参考に、プロジェクトでは「避難後の生活」をテーマに、来年度の学習に向けてステップづくりを試みた。各部で想定される心配点やつきたい力について話題にした。検討の中では、以下のような意見が出された。

- ① 避難先（居住地や避難所）で想定される心配
 - ・暑さや寒さ
 - ・トイレ
 - ・慣れない食べ物
 - ・知らない人と生活を共にすること
 - ・医ケア
 - ・安心して休息や睡眠をとること
 - ・いつもと違う場所での生活
 - ・静かに過ごすこと
 - ・自分のことを伝えられるか
 - ・普段との違いによるパニック
- ② どんな力がついていけば安心して過ごせるか
 - ・日課変更を理解し、対応する力
 - ・避難所のイメージを持っていること
 - ・安心して過ごすために必要な物を知り用意する力（グッズ・音の遮断等）
 - ・どんな食事でも食べられる力
 - ・知らない人の中で過ごす力

これらの想定される心配点やつきたい力にかかわり、どのような体験や学習をしておくとよいかを検討し以下のようにまとめた。

令和4年度木曾養プロジェクト「防災教育」 ～各部・舎でこれから取り組めそうな内容～

	地域を知る	情報伝達	備蓄・備え	食	避難・避難所生活
平常時	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マップすごろく ・生活地域の危険箇所は？ ・マイハザードマップ作りと家族での共有 ・防災さんぽ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルプカードの使い方 ・自分にできる周田への助けの求め方を知る ・信州防災手帳を読む ・信州防災アプリ登録 ・長野県防災ツイッター登録 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災ポーチや安心グッズ ・棚や物の固定 ・防災ポーチづくりをクラフト班に発注 ・家の自室を安全に管理 ・備蓄品や避難所開設時に必要な物品を誰でも出せるように整理共有 ・教職員の防災リュック 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災リュックに各家庭から個に応じた非常食を備蓄（缶詰やレトルトなどで1食分） ・学期末の持ち帰り点検と中身の入れ替え 	<ul style="list-style-type: none"> ・壊れる、落ちる物がある場所の確認 ・生活地域の避難所確認
発生時・直後		<ul style="list-style-type: none"> ・困っていることを周田に伝える ・周田に助けを求める 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災リュックを背負って避難(地震・豪雨時) 		<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス運行中の地震発生時の対応 ・単独通学中の地震、熊や猿、不審者への対応 ・災害ごとの身の守り方 ・避難路が通れない等、状況に応じた行動 ・AEDの使い方 ・地震車体験 ・校長教頭不在時の対応
被災後		<ul style="list-style-type: none"> ・家族との安否確認練習 ・災害伝言ダイヤル ・電話やネットが使えない時の情報収集方法 ・周田への助けや配慮等の要望を周田に伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災リュックの中身を使う 	<ul style="list-style-type: none"> ・リュックの非常食を食べる(学期に1回) ・非常食をパックのまま食べる ・非常食用おやつを食べる ・避難所で出そうな食事を体験(おにぎりやパン) ・災害食クッキング ・焚火で調理 	<ul style="list-style-type: none"> ・木曾青峰高校(二次避難場所)まで行く ・避難所へ移動するまでのルート/動きの確認 ・伊谷地区避難時の受け入れ対応訓練 ・福祉避難所開設時の動きの確認 ・停電/暗い中での生活体験 ・簡易トイレ体験 ・寒さ暑さへの対策 ・段ボール仕切り内での生活体験 ・共同浴場に入る ・家族以外との食事や宿泊 ・避難所の日課を知る

4 本年度の成果及び今後の課題

次年度の学校の在り方を検討するプロジェクトに防災安全教育を位置づけ、子どもたちとこれまで取り組んできた学習内容を整理することで、偏りや重複があることが明らかになった。繰り返しの指導が子どもたちの学年段階に応じて積み重なり発展するように学校全体の防災教育計画の見直しを継続していくことが課題である。

(文責 教頭 酒井 良恵)

飯山養護学校における防災安全教育の充実に向けた取組について

～学校防災アドバイザー派遣・活用事業の具体②～

長野県飯山養護学校

1 はじめに

飯山養護学校は、平成3年に開校した特別支援学校で、今年度32周年を迎えた。本年度は児童生徒数70名、職員79名である。長野県最北端の田園と緑の里山に囲まれた自然環境の中に立地している。冬期は、積雪が1mを超えることもあり避難経路の確保のための雪かきが職員の毎日の日課にもなっている。



2022.1.14撮影の本校

また、当地は、千曲川と樽川に隣接しており、ハザードマップでは浸水深5m以上の想定区域で、開校前の昭和57年、58年の2年続きで千曲川の氾濫被害にあった場所でもある。さらに、令和元年の台風19号でも避難指示が出された地域でもある。

このことから、子どもたち及び職員は、万に備え、日頃から防災意識を高め、自分の身は自分で守ろうとする力を育てていきたい。

2 飯山養護学校の防災教育について

「学校安全総合支援事業」最終年の5年目を迎えた本年度。学校防災アドバイザーの白神先生から2度の直接来校指導・助言と1度のオンライン指導をいただきながら、防災体制を整え、防災研修や防災教育旬間(1月に計画)を設け、防災教育を推進している。

今年度は、避難訓練に加え、水害時保護者引き渡し訓練(3年目)、地震体験車を利用した地震体験等を行った。また、職員防災研修2回(①授業日(昼間)における「R4自然災害に対する避難・対策マニュアル」に沿った職員水害時緊急避難模擬訓練 ②私の防災ポーチを中身の工夫点等について、ワークショップ形式で紹介し見あったり、防災ポーチを生かした防災教育の授業を展開していく上のアイデアを出し合ったりすること)を実施した。

(1) 今年度の避難訓練(学校)

回	期日	災害想定	避難想定
1	4/19	火災時	避難経路の確認及び2次避難への避難 自営消防団係活動の確認
2	9/28	緊急地震速報システム利用	予告なし(清掃中に実施) 不明児童生徒の搜索(職員)
3	1/13	冬季の火災時	積雪の為校庭に避難できない場合の避難

(2) 今年度の避難訓練(寄宿舍)

回	期日	災害想定	避難想定
1	4/18	火災時	避難経路の確認
2	6/27	夜間火災時	野坂田地区との合同訓練
3	9月	緊急地震速報システム利用	予告なし 地震時の避難の仕方の確認
4	1/16	冬季の火災時	積雪時の避難

(3) 水害時保護者引き渡し訓練 7月1日(金)

☆ねらい

- ・災害時の緊急時に備え、避難マニュアルに沿って、保護者への連絡訓練・引き渡し訓練を準備も含めて実施し、児童生徒を保護者に確実に引き渡すための方法や手順を確認する。
- ・水害危険地域に立地している本校において、新しい職員はもちろん今までおられた職員も、洪水等水害の対策避難訓練の一環である引き渡し訓練を行うことで手順等確かめ、いざという時に備える。

(4) 第1回職員防災研修 7月1日(金)

- ・授業日(昼間)における「R4自然災害に対する避難・対策マニュアル」に沿った職員水害時緊急避難模擬訓練を各部ごとに行った。

☆ねらい

- ・家庭へ緊急の引き渡しが完了される前に、避難指示が決定し場所を移動することになった場合を想定し、万一に備えるため、必要なことを考える。
- ・職員の動きの確認
- ・注意点、改善点の見出し

☆想定

- ・午前中に記録的短時間集中豪雨が発生し、千曲川警戒水位が上昇。正午、保護者にオクレンジャーで緊急お迎えの下校を依頼した。13:30 警戒レベルが4に上昇。飯山市より避難指示が発令し、「城南中学校」への避難が決定する。

(5) 地震体験車による地震体験 9月30日(金) 各部ごとに実施

☆ねらい

- ・地震体験車で強い地震を体験することで、いつ発生するか分からない地震に対しての心の準備や対処法について学ぶ。

(6) 第2回職員防災研修 11月10日(木)

詳細別記

(7) 防災教育旬間(計画中) 1月10日~1月19日

☆ねらい

- ・第3回避難訓練を実施予定の時期に合わせて、万一の時の時の為は何をどう準備し、非常時にはどう動くのかを考え、11月10日に研修した防災ポーチを生かした防災教育の授業アイデアを出し合ったことをもとに各クラスで授業実践をしていき、発達段階に応じた防災意識や防災に対する準備等をしていく。

3 学校防災アドバイザーとの関わり

(1) 防災アドバイザー 白神晃子先生の飯山養護学校来校訪問によるご指導について

① 期日 令和4年8月19日(金) 午前10時より午後1時40分まで

② 参加者 白神先生、本校安全防災係

③ 日程

10時~10時10分	係自己紹介及び本日の予定を確認する。
10時10分~11時	引き渡し訓練、2次模擬避難訓練研修の様子の共有・ご指導
11時~11時40分	避難対策マニュアルの見直し等
11時45分~12時15分	校内危険個所を昨年の結果を踏まえ、再確認巡視
13時~13時30分	今後の予定(職員研修)について

《白神先生からのご指導》

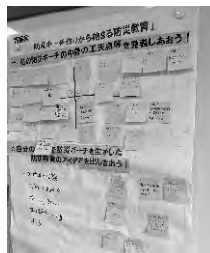
- ・引き渡し訓練の期日は、反省で出されたように、出来れば梅雨入り前がより望ましい。
- ・避難マニュアルに沿って実際に模擬訓練で2次移動訓練に取り組んだことは、課題を見出す上でも良かった。→課題から避難対策マニュアルをもう一度見直し、修正していくと良い。
- ・引き渡し中に、避難場所に移動になった場合、移動中の保護者を本校で待つのではなく、命を守るため避難場所（城南中）に移動しそこに迎えに来てもらうのが望ましいと思う。
- ・昨年の校内危険個所の改善が図られていてよい。引き続き、「棚の上には物を置かない。」事を時々確認し、「窓ガラスには飛散防止シート」「家電等は移動しないように固定」をしていく。
- ・非常用飲料水が用意できて良かった。非常食は、個々に合わせて用意していくのが良い。例えば、保護者とともに非常持ち出し袋に入れるものとして非常食の中身を考えるのも防災教育であり、楽しくできそう。
- ・避難場所である城南中とも連絡を取り、万一利用することを想定し利用方法や課題などを明らかにしておきたい。

(2) 防災アドバイザー 白神先生とオンラインによる11月10日実施の防災研修について事前打ち合わせ

- ① 期日 10月26日（水）
- ② 参加者 白神先生 本校安全防災係

(3) 第2回職員安全防災研修 「防災ポーチ作りから始まる防災教育」

- ① 期日 11月10日（木）16時～17時
- ② ねらい
 - ・防災教育の視点から、私の防災ポーチの中身について、ワークショップ形式で、個人の好みや工夫で用意したものを紹介し見あったり、防災ポーチを生かした防災教育の授業を展開していく上のアイデアを出し合ったりすることを通して、防災アドバイザーの先生のご指導・助言や、他校での実践事例の紹介等を頂きながら、実践に役立つ防災教育のヒントを学ぶ。
- ③ 場所(コロナ感染レベル上昇によりズーム利用で、分散開催)・小学部一食堂、
・中学部一ワークルーム ・高等部及びなのはな ・寄宿舍職員一体育館
- ④ 日程
 - ・はじめのことば
 - ・講師紹介
 - ・私の防災ポーチの中身についてグループで工夫点等を発表しあう。(15分)
 - ・講師からのアドバイスと他校での実践事例の紹介(10分)
 - ・自分のクラスで防災ポーチを生かした防災教育を展開していくためのアイデアを出し合う。(20分) 白神先生各会場をまわり、指導助言。
 - ・講師のご指導(10分)
 - ・お礼の言葉(3分)
 - ・終わりの言葉



ワークショップ形式で付箋でまとめ



グループで話し合いアイデアを出し合う!

《職員の感想》

- ・事前に白神先生作成の「作ろう！防災ポーチ」のビデオを見ながら、防災ポーチを作ったり、紹介したりしあったので、分かりやすく良かった。また、先生方のアイデアを聞くことができ、新しい発見や楽しみながら、万一のことをイメージし、どう対応したらよいか考えるきっかけになった。
- ・防災教育について、どうやって取り組めばよいか迷っていたが、先生方と話し合う中で楽しみながら取り組めそう。
- ・防災ポーチという具体的な物をきっかけに、改めて災害の時どうするか考えるきっかけになった。

4 事業の成果（○）及び今後の課題・来年度の取組（△）

- 昨年度本校で設置された避難時の「安心スペース」について、4月の避難訓練前の事前指導と、9月の避難訓練時に実際に体験することで、「安心スペース」の場所と利用の仕方を再確認することができた。
- 9月の避難訓練時に緊急地震速報システムを利用したので、普段聞くことがない緊急地震速報を聞くことで、よりリアルな避難訓練になった。
- 「防災ポーチ作りから始まる防災教育」の研修を通して、白神先生から、防災ポーチという具体的なアイテム作りと職員間の紹介の場及びそれを発展させた防災授業のアイデアをいただき、楽しみながら授業に取り組む良いきっかけになった。
- 避難マニュアルに沿って、実際に二次避難所に移動する模擬訓練を行い、課題が改めて明らかになった。
- △模擬訓練で明らかになった医療的ケア児童生徒の持ち出し品のリスト作成・準備と移動方法を再確認し、マニュアルを改善していく。
- △今年度、PTAのご協力により、非常時飲料水を確保することができたので、非常食について各個人で非常持ち出しを考える中で用意していきたい。
- △水害時避難場所である城南中と連絡を取り、よりスムーズな移動・避難ができるようにしていく。

（文責 教諭 安全防災係 渋谷清信）

諏訪養護学校における防災管理、防災教育の充実に向けた取組について

～学校防災アドバイザーの視察及び指導・助言を通して～

長野県諏訪養護学校

1 はじめに

諏訪養護学校は、諏訪地域の東側、諏訪郡富士見町に位置し、諏訪圏域6市町村の児童生徒186名が在籍している。登下校は、小、中学部の児童生徒の大半がスクールバスを活用し、高等部生は、スクールバスや電車等で通学している。そのため、自然災害が発生し、道路の通行止めや公共交通機関の運行停止等の場合、ほとんどの児童生徒が帰宅困難になる可能性がある。大雨や大雪、地震等による自然災害時の学校体制について、本事業を活用しながら整備を進めていきたいと考えた。

2 諏訪養護学校の防災体制・訓練について（概要）

本校では、災害時の基本対応については、「防災マニュアル」により示されており、毎年、学校防災アドバイザーの先生から助言をいただき、防災マニュアルの見直しを行い、学校の防災体制を整えている。

今年度は、前回の視察時に学校防災アドバイザーの先生からいただいた助言を基にして、防災管理や訓練等を通じた防災教育を実施した。

第1回（4月）	目的：避難経路の確認	想定：緊急地震速報システム作動 （児童生徒への日時予告）
	全学級：避難経路の確認、避難時の並び方の確認等 避難学級：小・中・高の新1年生の学級 教室の場所が大きく変わった学級 ※コロナ感染警戒レベルの上昇により、避難学級を縮小して実施	
第2回（7月） ショート訓練	目的：地震発生時の初期動作の確認	想定：緊急地震速報システム作動 （児童生徒への時間の予告なし。職員へは周知）
	全学級：初期動作の確認（避難なし） 地震に関する資料掲示	
第3回（9月）	目的：初期動作から避難誘導 二次避難から引き渡し	想定：緊急地震速報システム作動 （児童生徒への日時予告） 校舎の一部が損壊のため保護者への引き渡し

	全学級：初期動作から避難誘導し、部ごと二次避難場所に移動後、保護者が迎えに来るまで待機し、的確に保護者に引き渡しを実施。前回からの改善点：看板による誘導の確立。保護者札の携帯。部ごと看板の色（小→赤 中→緑 高→青）を保護者へ事前通達。 【学校防災アドバイザー視察、事前・事後指導】	
第4回（10月） 医療アラートが 医療警報に引き 上がり中止	目的：火災発生時の避難行動	想定：火災想定 (児童生徒への日時予告)
	全学級：火災発生場所に近づかない避難経路で、迅速に避難する。コロナの感染警戒レベルに沿って、避難学級を指定。	
第5回（12月） ショート訓練	目的：地震発生時の初期動作 の確認	想定：地震想定（予告なし）
	全学級：初期動作の確認（避難なし） 地震に関する資料掲示	
第6回（2月） ショート訓練	目的：地震発生時の初期動作 の確認	想定：地震想定（予告なし）
	全学級：初期動作の確認（避難なし） 地震に関する資料掲示	

3 学校防災アドバイザーの関わり

学校防災アドバイザー（信州大学 廣内 大助 先生、立正大学 白神 晃子 先生）

(1) 事前打ち合わせ（8月29日 オンライン） ※助言内容

① 引き渡し訓練について

- ・リストにない方が迎えに来たときの対応
- ・引き渡す方の自筆のサインを必ずもらう
- ・引き渡さないでほしい人や来られないだろうという人、連絡後どのくらいの時間で迎えに来ることができるか、保護者が記載できる欄を設ける
- ・保護者への引き渡しが進み、児童生徒の人数が少なくなってきた時の想定
- ・予告なしで引き渡し訓練（実際にはオクレンジャー発信、受信のみ）を行い、保護者が連絡を受けた場所から何分で来校できるか返信してもらい、実際に残る想定人数の把握

② 福祉避難所について

- ・富士見町の福祉避難所としての協定は結ばれているが、町からの物資は、避難してきた人たちのものとして考え、児童生徒の分は、学校で用意しておくのがよい

③ 個別の避難計画

- ・市町村と連携し、学校も積極的に関わっていけるとよい

(2) 引き渡し訓練当日（9月16日）

① 改善点

ア 看板による誘導の確立

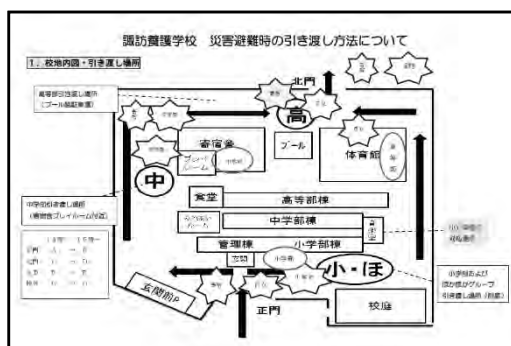
→事前に案内看板の色が部ごと違うことを保護者に伝え、当日は、案内看板の色（小学部→赤色 中学部→緑色 高等部→青色）に着目し、引き渡し場所に誘導

イ 保護者札(名札)の携帯の徹底

→来校時、常に保護者札を携帯していただくことを年度当初から周知し、引き渡し時も保護者札がある方に引き渡しを実施



② 学校防災アドバイザーの助言内容



- ・本部にホワイトボードを用意し、各部の状況（けが人）や通行止め箇所の記入
- ・職員のヘルメット着用の徹底
- ・児童生徒や職員のヘルメット着用が望ましいが、ないなら帽子でも可
- ・車の出口ははっきり、わかりやすく

- ・保護者のネームプレートの色によるスムーズな案内により、誘導の人員の削減
- ・人数が減った時の対応。学級の合体等
- ・大雨の時の想定
- ・例として、中学部の引き渡し場所が使用できない時の対応
- ・本部との連絡手段として、各部に1つ連絡用トランシーバーの購入
- ・余震を想定した教室での過ごし方
- ・防災バッグは、子どもたちと一緒に考えてもよい

(3) 校内外の安全点検等の指導、助言内容

① 教室内について

- ・職員も一緒に隠れる練習をする
- ・窓ガラスフィルムを貼っておくとよい

② 各部室について

- ・部室内の危険箇所の気づきが、自身の担当教室に結び付き、改善につながる
- ・ロッカーの上の重いものは下へ

③ その他

- ・案内掲示は防水紙を使用

4 事業の成果及び今後の課題

(1) 事業の成果

学校防災アドバイザーの先生方の視察や指導・助言により、安全・防災係や各部の部長を中心に「防災マニュアル」の見直しを定期的に行った。また、引き渡し訓練時においても、「緊急事態時の対応である」ということを職員が意識し、事前準備（コーンを並べて車線レーンにする、道路に矢印を引く等）をなくして実施をした。特に保護者札(名札)を事前に部ごと色分けをし、当日の誘導案内の表示も同色で統一したことにより、保護者には、分かりやすく、スムーズな誘導へとつながった。

また、学校備蓄品や防災バッグの準備の必要性についても助言をいただき、今まで購入してあった備蓄品（カレーやハヤシライス、飲料水）にプラスして、防寒シートやゼリー等以外に、非常持出袋（懐中電灯、軍手、ホイッスル、ヘルメット）を学級数分購入し、いざという時のために最低限整えつつある。

(2) 今後の課題

① 引き渡し訓練について

自然災害時における保護者への引き渡しについて、大雨の時の想定や一つの部の引き渡し場所が使用できない時の対応等、学校防災アドバイザーの先生方からの助言を基にいくつかの想定に対する対応を決め出したい。また、本部としての役割についても職員で共有し、的確な指示、伝達が行えるよう訓練を通して高めていきたい。

② 福祉避難所としての役割について

富士見町の福祉避難所として、協定は結ばれているが、実際に学校職員の動きや物資等の動きについて町と具体的な話を進めていく必要性を感じた。児童生徒、職員の備蓄についても1日分の食料確保を進めて、さらに、医療的ケアの必要な児童生徒に対しての環境も整えていきたい。

③ 個別の避難計画について

諏訪圏域6市町村との懇談会を毎年定期的に行っている。自然災害等が発生した場合、児童生徒の個別の避難計画についても行政の力を借り、推進していきたい。

④ 地域との連携について

コロナ禍、地域の方に協力していただいていた避難訓練が実施できずに今年度も終えようとしている。夜間の災害時等に対して、寄宿舍にいる生徒、職員の安全な避難に対しては、地域の方の協力も必要となる。今後、今まで培ってきた学校と地域の連携についても絶やさぬよう深めていきたい。

(文責 教頭 傳田 浩章)

安曇養護学校における防災体制の充実に向けた取組について

— 学校防災アドバイザー派遣・活用事業 —

長野県安曇養護学校

1 はじめに

長野県安曇養護学校は、北安曇郡池田町会染内鎌に位置しており、令和4年度は小学部・中学部・高等部・高等部あづみ野分教室・訪問教育部に205名が在籍している（令和4年4月現在）。児童生徒は、北は小谷村、南は塩尻市の広域からスクールバスや送迎、自力通学で登校してきている。また、寄宿舎も設置されており、現在は23名の児童生徒が利用している。

学校の東側にある山の斜面には、クラフトパークや美術館、西側には有明山が聳え、雄大な北アルプスの山々が連なっている。学校西側には一級河川の高瀬川が北から南へと流れ、河川敷にはマレットゴルフ場や公園広場がある。穏やかな日には子どもたちが散歩を楽しむ姿が見られるが、学校付近や上流には霞堤防があり、高瀬川氾濫時にはそこから水を逃すような地形となっている。長野県を広域で見た場合には、北アルプス圏域から松本圏域までの非常に広範囲の地域であることから、北と南では気象条件もまったく異なることもある。本校は、池田町のハザードマップによると、高瀬川の1000年に1度の想定最大規模降雨（48時間で741mm）では50cmから3mの浸水想定区域となっている。

2 長野県安曇養護学校の防災体制について（概要）

本校では、「学校防災計画」「危機管理マニュアル」「避難確保計画」によって災害時に備えている。防災組織として、本部・通報連絡・避難誘導・消火・救護・搬出・警備・査察の8つの係を編成し、全職員で組織している。防災教育としては、例年教室と寄宿舎で年間4回ずつ（火災3回、地震1回）避難訓練を実施している。引き渡し訓練では、昨年度新たに浸水害を想定したタイムラインを保護者に配布し、早い段階での引き渡しを想定した訓練を実施している。

3 学校防災アドバイザーの関わり

昨年度の学校防災アドバイザーとの懇談の中では、これまでの防災体制の状況確認と点検を行い、その後の改善点についてアドバイスをいただいた。改善状況に本校で制作したタイムラインや避難確保計画の内容については、本校の実情や様々な観点から修正や見直しなどは継続して行っていく必要があることを再確認した。また、地震等の災害については、危険個所の認識や環境整備について一層の安全対策を講じていくことを確認した。

昨年度の課題としてあった浸水害を想定した2次避難場所については、候補地を選定し、その視察と災害時の避難について確認を進めていくことにした。

(1) 昨年度に学校防災アドバイザーから受けたアドバイスとその後の対応

① タイムライン・避難計画について

- ・昨年度作成したタイムラインについては、安全防災係内で内容を点検し、保護者に配布して災害時の具体的な動き方について周知した。

② 教室・作業室の環境について

- ・ロッカーや棚の上に荷物を置かないことや重い荷物などは床に近い場所に置くようにするなど職員へ注意を促した。また、防災対策用品などの不備や不足が無いかを各室責任者から調査を行い、荷物が滑り落ちないように必要な分の滑り止めシートを各教室に配布し対策をとった。
- ・大型テレビやキャスター付きの棚などは使用しやすいように取り外しが可能なロープや金具を使い固定をした。



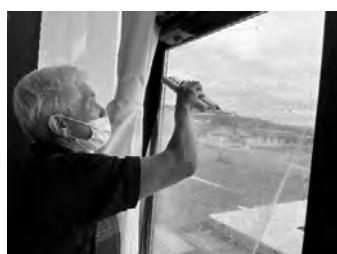
③ 防災頭巾やヘルメットについて

- ・ヘルメットの購入を進め、いざという時のために各教室の状況に合わせ、手が届くロッカーの上や屋外への出入り口付近に掛け、すぐに取り出せる所に置いた。



④ その他の環境について

- ・地震や強風によりガラスなどは破損の可能性が高いため、教室から屋外へ行き来できる非常口には、ガラス飛散防止フィルムを貼った。



⑤ 避難訓練について

- ・火災や地震を想定した避難訓練、予告なしの避難訓練を計画した。新型コロナウイルス感染警戒レベルが高くなり、延期、見合わせになったことで密を避けるために全校一斉に出来なかったり、中止になってしまった。しかし、各学年や学級対応で、一斉

に集まらない形で実施した。コロナ禍における避難訓練についての方法を具体的に計画することが必要である。

⑥ 備蓄品

- ・学校には食事や水分、その他の防災備品があるが、児童生徒の個人備蓄（安心グッズ、着替え、好きな缶詰など）は、保管場所や保管方法などを検討していく。

⑦ 研修と理解

- ・インターネットでは防災関連のビデオや児童生徒向けの映像などが多数閲覧できるため、ここ数年でも利用する学年や学級が増えてきている。折に触れて、教材として利用して、理解を深めていきたい。

⑧ その他

- ・これまで寄宿舎の避難訓練は地域の消防団にも参加いただき、協力してきてもらっているが、コロナ禍で訓練を実施していないため、協力体制の再確認を図る必要がある。
- ・寄宿舎の洪水のタイムラインも学校とは別に作成してあるが、夜間の危険度が高いことや周辺の浸水の状況によっては、児童生徒を保護者へ引き渡すより寄宿舎に待機をした方がよいとの見方もある。

(2) 2次避難場所への移動についてのアドバイス

① 最寄りの会染小学校への協力依頼

- ・会染小学校の防災対策を教頭から説明を受け、災害時の具体的な受け入れ方法などについて確認する。理科室やつどの部屋などは机や椅子が異動させることができるため、避難した人数に応じてスペースを確保できる。

② 地域にある大型商業施設や多目的センターの駐車場の利用

- ・大型商業施設では、地域貢献という目的もあり災害時には学校だけでなく、地域、一般の方など特定せずに駐車場を利用できる。ただし、実際には災害時は現場の混乱が予想されることから、学校職員が交通整理などに協力していく必要がある。
- ・多目的センターの利用については、池田町で定めている避難対象に学校が含まれないこともあり、学校から近い場所であっても優先的に利用することは困難である。

③ スクールバスの利用にかかわって

- ・2次避難場所へスクールバスを利用することは、一度に多くの人数を移動させるにはよい手段ではあるが、常時学校にドライバーがいらないため実際には困難である。現実的には、災害状況を確認したうえで学校職員の車を使用することも考えられる。

④ 避難場所での備蓄品について

- ・もし2次避難場所へ移動した場合には、そこに留まる可能性があることを想定しておくことが必要である。
- ・2次避難場所へは、児童生徒だけでなく一般の方も避難することになると物資の不足が想定される。周囲が水没し、その場所に留まる状況があり得るため、移動せざるを得ない状況の場合には、学校にある備蓄品の移動も含めて準備をしておくことを検討

していく。

⑤ 避難所の見学

- ・学校周辺は民家や農耕作地となっているため、水没した場合には避難所までの道路などが分からなくなる可能性もある。周辺の建物などの目標物を頼りに避難所までたどり着けるようにできるだけ安全に移動できるような広い道路を予め決めておく必要がある。
- ・会染小学校校舎内で避難場所として使用できる教室までの通路やトイレなどを確認した。
- ・避難が長期間になる場合、障がい者ということで福祉避難所的な対応も相談していく必要がある。

4 事業の成果及び今後の課題

- ・学校防災アドバイザーからの助言により、学校の教室環境などの具体的な改善点や教職員の防災に対する意識が向上している。
- ・2次避難所への移動については、可能性のある施設と連絡をして、災害時の動きなどを想定しながら準備をすることが出来た。
- ・年間を通して避難訓練を計画してきたが、新型コロナウイルス感染警戒レベルが高く密を避けるために分散しての実施または中止せざるを得ない状況もあった。しかし、感染警戒レベルが高い状況であっても必要な訓練の機会を確保することやどのような方法で安全確保ができるのかを模索していく必要がある。
- ・町内にある小中学校や各諸団体の施設管理者を対象とした防災関係の会議が開催されたが、本校は県立学校ということもあり対象外で案内はなかった。学校のある町内の各施設等とは災害時には協力体制を作ることが想定されることから、このような場にも参加をしていく必要性があると思われる。
- ・校舎や備品の老朽化などに対応できるよう遊具点検や計画的な検査など予算化していく必要がある。
- ・予定している校舎建築では、家具の固定や構造、耐震対策を考え、安心して過ごせる環境を考えた。

5 まとめ

安全防災係を中心に防災体制の構築を進めてきているが、タイムラインや避難確保計画などを備えながらも、具体的な防災に向けた対策が目に見えることで児童生徒や職員の意識も以前よりも高まっている。また、防災訓練の直前に行う事前指導はもちろん、事後指導でも訓練を振り返り、安全を確保するために必要なことは何か、児童生徒や教職員自らも訓練を通して気づいたことを出し合ったり、新たな安全対策を考えたりすることが学校全体の防災意識を高めていくことに繋がっていく。

(文責 教頭 漆戸隆司)

洪水土砂災害発生を想定した 保護者引き渡し訓練の実施

— 防災アドバイザーとの連携による訓練計画の立案 —

長野県小諸養護学校

1 はじめに

小諸養護学校は、長野県小諸市にあり佐久圏域の児童生徒を対象とした知的障がい特別支援学校である。小諸市にある本校のほか、小中学部の分教室（ゆめゆりの丘分教室）が佐久穂町にある佐久穂小中学校内に設置されている。また、高等部分教室（うすだ分教室）が佐久平総合技術高等学校臼田キャンパス内に設置されている。更に、小諸高原病院内には訪問教室が設置されている。

本校は、浅間山麓に位置していることから、長年にわたり浅間山の噴火への対応を課題としてきた。しかし、2019年10月の大雨による千曲川の氾濫によって、通学区内では深刻な被害を受けた地域もあり、改めて多方面の自然災害について再見する必要性が出てきた。学校の所在地は、様々なハザードマップからは外れているものの、幹線道路と一本道でつながっているのみであることから、そこが封鎖された場合孤立してしまう恐れもある。

2 本年度の計画

昨年度、浅間山の噴火時の対応について、現存のマニュアルと想定される災害について見返しをおこなった。その中で、噴石、降灰などの噴火直後の避難誘導を想定したものにとどめるのではなく、噴火が落ち着いてきた後に想定される訓練の必要性が認められた。

また、大雨による千曲川の氾濫での経験から、災害発生後の引き渡しについては、各家庭からの迎えにはどのくらいの時間を要するかなどの緊急連絡網を活用した実態把握を行った。引き渡し訓練を喫緊の課題とした上で、学校がどう判断し、どのように保護者への連絡を取るのかを具体的な形にしておく必要性が確認された。

そこで本年度は、昨年度からの継続で防災アドバイザーにご協力いただき、洪水土砂災害時のタイムラインの作成と、引き渡し訓練の実施を目指す計画とした。

3 本年度の実践

(1) タイムラインの作成

【令和4年6月】

千曲川が氾濫した場合に備えて、対応を決定していく指針となるタイムラインの作成に着手した。地方気象台からの発信される気象情報や警報、地域の河川の水位を情報源とし判断していくことにした。各警戒レベルに応じて、学校(教室)や寄宿舎の動き、下校後の家庭での動きを一覧にしたタイムライン(試案)を6月に作成した。防災アドバイザーの助言を参考に加除修正しタイムラインを完成させる(※資料Iを参照)

(2) タイムライン(試案)と引き渡し訓練実施計画案の中間報告

【令和4年8月】

防災アドバイザー(立正大学白神先生、県危機管理防災課 小原様)にご来校いただき、

立地条件や建物の状況等の学校環境を見ていただくとともに、校内で作成したタイムライン（試案）を見ていただいた。また、初めての実施となる引き渡し訓練の計画について説明を行い、加除修正が必要な点や運用に向けてのご助言をいただいた。

(3) 引き渡し訓練の実施

【令和4年10月】

本校においては初めてとなる引き渡し訓練を実施した。まずは実施してみることに重点を置き、実施後の振り返りを今後に活かしていきたいと考え、専門家にご来校いただくことにした。防災アドバイザー（白神様、小原様）、県危機管理防災課（馬場様）、県保健厚生課（藤村様）に訓練の参観を依頼し、訓練終了後、反省会にてご助言をいただいた。訓練は、以下の点に配慮しながら実施した。（※略案は資料Ⅱを参照）

○ 部ごとに時差を設けての実施

実際の想定とは異なってしまいが、本校の立地条件（幹線道路から1本道であることや毎日の下校の際でもかなりの混雑が生じていること）を考慮し、渋滞による公道の混乱をできるだけ回避しながらも実態や課題をつかみたいと考え、部ごとに若干の時差をつけて実施することとした。

○ 引き渡し場所と引き渡し方法の工夫

学校敷地内での渋滞や事故を防ぐために、部ごとに引き渡し場所を分散して設定し、ドライブスルー方式の引き渡し方法で実施した。また、学校敷地内への車両出入口が1箇所しかないので、正門での確認とアナウンスの方法を工夫した。



引き渡し訓練の様子（令和4年10月28日）

4 本年度の成果と課題

本年度の計画であったタイムラインの作成と引き渡し訓練の実施ができたことは成果であった。作成段階や計画段階において、専門家から助言を受けながら立案できたことにより、多角的な検討にもつながった。特に引き渡し訓練ではドライブスルー方式の導入や、「緊急時引き渡し保護者ナンバーカード」について中間報告での助言を取り入れた部分があり、初めての引き渡し訓練でありながら大きな混乱もなく実施できたことにつなが

ったと考えられる。

来年度以降の課題として、校内でのよりスムーズな誘導や、緊急時用の車両出口の増設など具体的な改善点が明らかになった。

また、災害の状況によっては、必ずしも引き渡しが最善の策とはならない場合もあり、学校にとどまる可能性が出てくることも想定しておく必要があることが分かってきた。その場合、引き渡しにかかわる対応の他にも、物資搬入に向けた外部との連携や、学校での待機場所を開設するための準備にあたる職員の動きも必要となってくることが予想される。そのため、今回以上に役割分担が必要となってくる。物資の調達や医薬品の対応など、地域との連携や提携についても協議し、準備を進めていく必要がある。

また、防災アドバイザーからは、大雨や洪水土砂災害に備えるとともに、あらゆる災害をイメージした訓練を重ねる必要があるとの助言をいただいた。

来年度は校舎増築工事が予定されており、本年度の引き渡し訓練をそのまま実施することは不可能である。しかし、災害はいつ起こるか分からないため、本年度の実践を基に来年度（増築工事期間中）のマニュアルを作成しておくことが必要となる。緊急時用の車両出口の増設も実施されることが決まり、新たな計画案には組み込んでいけることとなった。

この2年間、災害発生時に児童生徒の安全をどう守っていくのかという、学校職員の立場からの防災に向き合う形で事業を活用させていただいてきた。外部や地域との連携について備えていく必要があることが分かってきた。また、今後は児童生徒が自らどう行動することが「安全を守る」ことにつながっていくのかを知り、実生活につなげていけるような防災学習の充実を目指していく必要があると考えている。

5 今後の予定

年度	事業計画
令和5年度	<input type="checkbox"/> タイムライン（洪水土砂災害関連）運用・見返し <input type="checkbox"/> 引き渡し訓練の計画・実施（校舎増築工事中） ○緊急時連絡網を用いた部ごとに時差を設けた引き渡し訓練 ・保護者からの受信から各係への情報伝達 ・保護者到着時刻から引き渡しの動き ・引き渡し不可能な児童生徒の学校滞在を想定した動きの確認 <input type="checkbox"/> 浅間山噴火を想定した避難訓練 ○タイムライン（浅間山噴火時）の作成 <input type="checkbox"/> 防災安全教育の授業の実施
令和6年度	<input type="checkbox"/> 引き渡し訓練の実施（新校舎増築後） <input type="checkbox"/> 学校滞在時の環境整備 <input type="checkbox"/> 防災安全教育の授業の実施
令和7年度	<input type="checkbox"/> 引き渡し訓練の実施（地域との連携） <input type="checkbox"/> 学校滞在時の環境整備 <input type="checkbox"/> 防災安全教育の授業の実施 <input type="checkbox"/> 学校安全総合支援事業のまとめ

6 資料

〔資料Ⅰ〕洪水・土砂災害に関するタイムライン（学校関係の抜粋）

警戒レベル	佐久地域の 大雨情報 (情報源) 気象庁 HP	河川の水位 (情報源) 河川砂防情報 ステーション <観測地点> 千曲川 塩名田 千曲川 下越	小諸養護学校 教室 (登校時)	小諸養護学校 寄宿舍 (下校後)
レベル 1	早期注意情報 台風情報 気象情報発表	ライブカメラ 確認	<通常日課> □タイムラインの確認 □臨時休校、自宅待機、 引き渡し検討 □注意喚起など、保護者連絡 ー斉配信メール・お便り	<通常日課> □タイムラインの確認 □引き渡し検討
レベル 2	雨雲レーダー 降水状況確認 大雨・洪水 注意報 氾濫注意情報	ライブカメラ 確認	<通常日課> □今後の天候の情報収集 □河川水位の確認	□電話連絡 「引き渡しの可能性あり」
レベル 3-1	大雨・洪水警報 暴風警報 記録的短時間 大雨注意報	2地点の 水位上昇 氾濫注意水位 に近づく	<通常日課> ⇒ 早めの下校、自宅待機 SB運行、送迎受入、 単通生引率 など □今後の天候の情報収集 □河川水位の確認 □道路状況、交通機関運行 状況の確認 ・一斉メール配信、電話連絡 「早めの下校、または、引き渡 し、自宅待機、または、臨時 休業の可能性があり」	□17:00 までに電話連絡 「お迎えに来てください」 □※連絡後、引渡開始 ・連絡がつかない、 1時間以上迎えなし家庭に 電話連絡 (舎担当) □電話で帰宅確認 □帰宅確認報告
レベル 3-2	記録的短時間 大雨情報 土砂災害 危険度分布 「警戒(赤)」 大雨洪水警報 が出され、 15時間後まで 警報の継続が 予想される	2地点の水位 氾濫注意水位 超 水位上昇傾向 避難判断水位 に近づく	<授業切り上げ> 引き渡し ・一斉配信メール配信 「お迎え来て下さい」 ※送信後引き渡し開始 ※単通生も迎えを依頼 □学校HPIに掲載 □メール未読家庭に電話 □SB会社移動の連絡 □引き渡し準備 □放ディ等事業所に連絡 □防災バック準備 □各部 引渡と生徒掌握 □引渡、未実施家庭に連絡 (引渡開始後50分をめぐり) 避難完了 ○安否確認、避難先の確認 → 特別支援教育課報告	・寄宿舍 避難完了
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> 避難の段階 </div>				
レベル 4	危険度分布 (紫)		避難完了 臨時休業	閉舎
レベル 5	大雨特別警報		避難完了 臨時休業	閉舎

〔資料Ⅱ〕令和4年度 引き渡し訓練実施計画略案

- 1 日時 10月28日(金) 13:30~16:30 (雨天決行)
- 2 ねらい
台風や水害、火山噴火等の緊急時に備え、保護者への連絡訓練・引き渡し訓練を実施し、児童生徒を保護者に確実に引き渡すための方法や手順を確認する。
- 3 想定
安全計画X1-3マニュアル「在校時の緊急対応」のレベル3
台風接近に伴い佐久地方に大雨洪水警報・暴風警報が発令され、千曲川の水位が上昇し、行政からも避難の必要性があるという情報が入った。そのため、緊急の運営委員会(含:副部長、防災安全係長)を開き、小諸養護学校タイムライン(学校防災行動計画)に従い、児童・生徒の引き渡しを行う。
- 4 留意点
 - ・初めての実施であることを考慮し、焦らず安全第一で行う。
 - ・一方通行の進行方向や各部の引き渡し場所について事前に各家庭にプリント配布する。
- 5 ながれ(抜粋)

時刻	内容	備考
12:30	オクレンジャー第1報(引き渡し可能性あり)	オクレンジャー
13:10	本部設置(引き渡し児生一覧表配布)	児生一覧表
13:20	オクレンジャー第2報(引き渡し実施・回答あり)	
13:30	引き渡し訓練開始	トランシーバー 誘導棒 カラーコーン

【手順】

- ①校門ナンバーカード確認
→無線で本部へ(連絡係)
- ②校内放送(番号2回繰り返す)
- ③児童生徒を引き渡し場所へ(各担任)
- ④引き渡し・名簿チェック(各担任)
- ⑤引き渡しが終了した学級
学級担任→部長に報告
- ⑥終了した部 部長→教頭に報告

※乗り降りに時間がかかる児童生徒については、近くの駐車場で引き渡しを行う。

※児生の乗車は保護者が主で行う。
シートベルトの確認は保護者。
担任は必要に応じてサポート。

※兄弟関係で一緒に引き渡す場合は、それぞれの担任と部長間で連絡を取って場所を決めておく。

【各部の待機場所】

- 小学部 → 教室・プレイルーム・玄関ホール
- わかば → 教室・プレイルーム・玄関ホール
- 中学部 → 図書室・食堂
- 高等部 → 体育館と音楽室
- 分教室 → 各教室

【設定時間】

- ①小学部 14:00 ~ 14:30
- ②中学部 14:30 ~ 15:00
- ③高等部 15:00 ~ 15:30
- ④わかば学級 14:00 ~ 15:00
※医ケアの児生 13:20 ~ 可
- ⑤訪問教育 今回実施なし
- ⑥ゆめゆりの丘分教室 14:00 ~ 15:00
- ⑦うすだ分教室 14:30 ~ 16:30

※上記の時間は、一応の目安
各家庭の事情等での変更も可
(最終は16:30まで)

【引き渡し場所】

- 小学部・わかば学級 → 正面玄関
- 中学部 → 食堂南側
- 高等部 → 体育館東側
- 分教室 → 各玄関付近

16:30 | 終了予定

(文責 教頭 柳澤 徹)

長野養護学校における防災管理、防災教育の充実に向けた取組について

— 学校防災アドバイザー派遣・活用事業 2年次 —

長野県長野養護学校

1 はじめに

長野県長野養護学校は長野県で最初に設置された知的障がい特別支援学校で創立 60 年を越える。長野養護学校本校（長野市徳間宮東）の他に、長野ろう学校に併置の小学部三輪教室（長野市三輪）、長野盲学校に併置の高等部朝陽教室（長野市北尾張部）、旧須坂創成高校須商キャンパス校舎の高等部すぎか分教室（須坂市須坂）の 3 つの分教室がある。

令和 4 年度は、本校（小学部・中学部・高等部）・小学部三輪教室・高等部朝陽教室・高等部すぎか分教室に児童生徒 232 名が学んでいる。通学範囲は長野市や上水内郡をはじめ、須坂市・上高井郡、中野市・下高井郡、飯山市・下水内郡と広域にわたり、自力通学（徒歩、自転車、路線バス、電車）や付添通学、スクールバスによる通学（スクールバス 5 台）をしている。また、本校には寄宿舎もあり令和 4 年度は 35 名の生徒が利用している。

本校は長野市の上野ヶ丘の中腹斜面に立地し、長野市古里や豊野方面が一望できる。令和元年度に起こった台風 19 号災害では、校舎に被害はなかったものの、周辺の被害状況に愕然とした。被災した家庭も少なからずあった。また近年の天候不順、特に予測不可能なゲリラ豪雨等への対応から何度か一斉下校や家庭の迎え（引き渡し）による下校も検討した。これらのことから、あらためて防災について日頃から考え実践していく児童生徒を育てていきたいと考えている。

2 長野県長野養護学校の防災体制について（概要）

長野養護学校では、これまで年度当初に避難経路や基本的な避難方法を確認する訓練、秋に地震を想定した訓練を毎年度実施してきた。また、寄宿舎でも同様に 2 回の訓練を実施してきた。昨年度は初めて引き渡し訓練（密を避けるために、小中学部と高等部を別にし、2 回実施）をし、保護者にも災害に対する意識をもってもらえたことができた。

今年度は、全校一斉に保護者に引き渡す訓練や避難時の生徒搜索訓練、防火扉が閉まった時の対応等よりいっそう実際の災害を想定した訓練を行ってきた。寄宿舎では職員が少ない中でも保護者へ安全に引き渡す訓練（保護者への連絡訓練・職



員が保護者と生徒役となり引き渡し訓練)を行った。また、昨年度アドバイザーの先生に教えていただいた「防災ポーチ作り」や「安心グッズ」の準備など児童生徒が主体的に防災を考える授業も行ってきた。

(1) 避難訓練について

①第1回避難訓練：避難経路及び基本的な避難方法確認

<火災発生想定> 4月26日(火)：全校(小・中・高別)

②第2回避難訓練：地震による避難および引き渡し訓練

<地震発生想定>

7月1日(金)：全校



③第3回避難訓練：避難時の生徒捜索訓練を含む <火災発生想定>

10月20日(木)：全校

- ・教室以外の場所からの避難(小中学部は自由時間中、高等部は清掃中)
- ・学級に関係なく近くにいる職員が避難誘導
- ・防火扉が閉まる
- ・生徒1名避難時に行方不明のため職員係活動で捜索する

④寄宿舎第1回避難訓練：避難経路及び基本的な避難方法確認 <火災発生想定>

4月25日(月)：月曜日泊の生徒(感染予防のため、ブロックごとに実施)

⑤寄宿舎引き渡し訓練(連絡および模擬引き渡し訓練)

9月30日(金)

<地震発生想定>



⑥寄宿舎防災安全教育・ショート訓練 <火災発生想定>

1月10日(火)～18日(水)：防災安全教育週間

- ・火災が起きたときの行動の確認
- ・防寒具の掛ける位置の確認

1月24日(火)：ショート訓練

- ・1階機械室からの出火を想定し、第2避難経路の確認



(2) 防災教育

①地震の発生における危険性について

- ・各避難訓練に合わせて、部・学年・学級・寄宿舎ブロックなど、児童生徒の生活に合わせて学ぶ機会を設けた。

学習カード例

「緊急地震速報がなったらどうする？」

②引き渡し訓練で保護者を待つときのアイテムについて

- 引き渡し訓練で、保護者を待つときに、「自分は何があれば長い時間待てるか」を考える時間を設けた。
- 例「お家の人があるのを待つとき何があればよいか？」
- 必要なものをバックに入れる。
- 先生と一緒に安心グッズをそろえる。
- 防災ポーチを準備する。

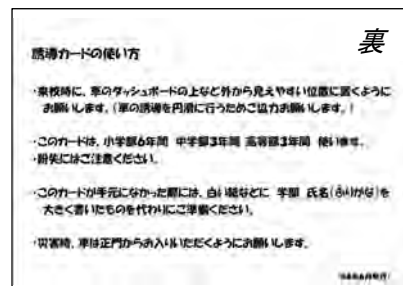
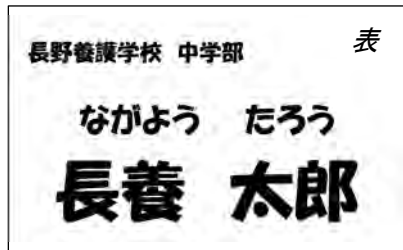


3 学校防災アドバイザーの関わり

(1) 信州大学 廣内大助先生より

昨年度に引き続き、今年度も7月1日の引き渡し訓練を実際に見ていただき、本校災害時危機対応委員および防災・安全係にご助言をいただいた。本番だったらどうなのだろうと考える、何が足りないか、何を準備しておけばいいかを考えておくことの重要性を教えていただいた。児童生徒の出席状況や職員の勤務状況を把握しておくこと、長時間待つことになるので児童生徒が不安を減らし待てる方法を事前に考え準備しておくこと、誘導用看板として矢印をたくさんラミネートしておくこと、また普段使いしておくことなどのご助言をいただいた。昨年度の反省をもとに実施した「部ごとの色別の誘導カード」についてはよい方法であるとお褒めをいただき、心強い思いをもつことができた。

今後の課題として、帰宅困難者もいることや緊急時に学校へはどのくらいの時間で迎えに来られるか等を事前に把握しておくこと、季節によってどのように対応するかの想定もしておく等のご指摘をいただいた。今後、考えていきたい。



[小中高色別誘導カード]↑

(2) 立正大学 白神晃子先生より

白神先生には、8月4日にリモートによる係指導、12月15日に来校して職員研修「非常時を想像して日常を創造しよう」を行っていただいた。8月の係指導では本校の現状をふまえ、今後どのように計画を進めていくかに



ついて多角的に相談にのっていただくとともに、特別支援学校での防災教育について他校の例を教えていただいた。12月の係指導では1年間の本校での活動を振り返りながら、来年度への課題把握をすることができた。その中で、「先生たちの防災意識が高まっている」点について評価していただいた。昨年までと比べ、訓練についての批判的な意見がなくなり、「こういう場合はどうすればよいのか」「こうしたらよいのではないか」等建設的な意見が増えてきていることを実感している。このことが、「防災への意識の高まり」であると捉える。昨年度は「まずやってみよう」というご指導をいただき、我々もそれを合言葉にやってきたが、やればやるほど課題が見えてくる。児童生徒の待機場所、暑さ・寒さ対策、保護者の車の駐車スペース・ルート、保護者の待機の仕方、トイレ、食事（備蓄品）、待機児童生徒がでた場合の対応等々、訓練の想定を検討する中でも、様々な点に気づく目が職員に育ってきたように思う。また、12月の研修では、実際の災害を想定し「こんな時はどう行動するか」「どんな情報が必要か」「どんなものがいいか」等、先生の問いかけに「自分ならどう行動するか」「自分ならどう考えるか」について考える機会を与えていただき、職員一人一人が自分事として考える研修となった。

4 事業の成果及び今後の課題

今年度は学校安全総合支援事業を実施して、2年目であるため、『「試してみよう」「振り返りをしよう」「振り返りを元に計画を改善しよう」「またやってみよう』という考えをもって、防災管理・教育をすすめてきた。やればやるほど課題も見えてくることで、次は「どのような想定で訓練をしよう」「何を準備しておけばよいか」等を考えながら、計画してきた。休憩時間中の訓練、停電になってしまった場合の訓練、防火扉が閉まってしまった場合の訓練など今まで踏み込めずにいた場面を想定して訓練できたことは大きな成果であると考えている。また、本校の立地条件・校舎設備等に合わせた防災マニュアルの見直しを継続的に行っていることも成果としてあげられる。ただし、様々な事項についてすべてのマニュアルをつくることは不可能である。基本の形を理解した上で、臨機応変な対応ができるようにしておきたい。日頃より教職員同士で、不安を語り、そんなときどう対応すればよいか、何を準備しておけばよいかを考えておくことが、いざという時の臨機応変な行動に活きるのではないかと考える。

課題としては、あげれば数限りなくあるが、2次避難場所や地域との連携について、停電や携帯電話が使用できない場合の保護者や職員への連絡方法、天候や季節による待機場所の判断等は今後も引き続き考えていかななくてはならないと考えている。



5 まとめ

本事業に参加したことが契機となり、これまで課題としながら手つかずであった点について取り組み始めることができた。学校防災アドバイザーにより、取り組んでいく上での視点を明確にさせていただいたり、他校の実践例を紹介させていただいたりしたことにより、より取り組みやすくなった。今年度取り組み始めたことにより、本校職員の危機管理意識も高まっていることを感じるので、来年度も全職員で防災意識を共有して取組をさらに進めていきたい。また、来年度は「防災教育」という視点を大切に考えていきたいと考えている。児童生徒の実態に合わせた防災教育（授業）が部や学級によって差があることは否めない。昨年度、ご指導いただいた「防災ポーチ」もすべての学級では取り組めていないことも事実である。来年度はすべての学級で防災教育が実施できるよう「防災週間」等を設定し、児童生徒が防災を集中的に考える授業に取り組んだり、防災弁当日を設定したりすることも考えたい。そして、継続的に防災教育に取り組む風土を構築していければと思う。

災害はいつ起こるかわからない。だからこそ、防災グッズの整備や防災倉庫の設置、児童生徒・職員・保護者・地域の方等の危機管理意識の向上と備え・連携、「こんなときどうする？」を常に考えながらの訓練等、児童生徒・職員の命を守る取組を学校として継続して取り組んでいきたいと強く思う。また、保護者の方にも学校だよりや全校保護者懇談会等で防災研修をした内容や成果等を伝え、共有していきたい。

（文責 教頭 丸山 勝己）

長野盲学校における防災管理、防災教育の充実に向けた取組について

— 命を守る避難訓練・防災安全教育 —

長野県長野盲学校

1 はじめに

長野盲学校は、東北信地区の視覚障がいのある幼児児童生徒を対象とした特別支援学校である。明治33年（1900年）4月、「長野盲人教育所」として開所し、今年度122年目を迎えた県内の特別支援学校の中でも最も歴史の長い学校でもある。昭和35年（1960年）以来、この地（長野市北尾張部）に位置している。本校は長野市の洪水ハザードマップで3mの浸水想定地区に指定されており、長野市の福祉避難所にも指定されている。



幼児児童生徒は30名が在籍しており、そのうち12名が寄宿舎を利用している。本校の特徴としては、0歳児から成人まで幅広い年齢層の幼児児童生徒が通学していること、国家資格（あんま・指圧・マッサージ師、鍼師、灸師）をめざす理療科があること、視覚障がいのある教職員が数名いることなどがあげられる。見え方や見えにくさは一人一人異なり、全盲の幼児児童生徒は2割で残り8割は弱視である。また、知的障がいや肢体不自由等の多様な障がいを併せ有する児童生徒が理療科を除いて半数以上在籍しており、多様な対応が求められている。また、在籍幼児児童生徒の他に早期支援教室、早期教育相談、通級指導教室、東信教育事務所眼の相談室には地域在住の子どもたち約30名が定期的に通っている。

本校の幼児児童生徒が防災について見通しをもち、自分ごととして判断、行動できるよう、防災教育の充実に向け、取り組んでいる。

2 長野県長野盲学校の防災体制について（概要）

(1) 学校での避難訓練

- | | |
|---------------------|----------------|
| ①第1回避難訓練（火災避難経路の確認） | 4月13日（水）10:50～ |
| ②浸水時対応避難訓練（水害 垂直避難） | 5月17日（火）10:50～ |
| ③第2回避難訓練（地震） | 9月1日（木）10:50～ |
| ④第3回避難訓練（火災 予告なし） | 11月4日（金）13:35～ |

【理療科 職員・生徒 避難の様子】9/1
手すりを伝いながら慎重に階段を下りて避難。



(2) 寄宿舍での避難訓練

- ①第1回避難訓練（火災 避難経路の確認） 4月11日（月）17:30～
- ②第2回避難訓練（地震 地域の方との合同訓練） 6月28日（火）17:30～
- ③第3回避難訓練（火災 くぐり戸を通る避難） 10月20日（木）17:30～



【地域の方との合同訓練】6/11

直前の打ち合わせ時に手引き歩行を地域の方に示し、実際の避難につなげた。

(3) 寄宿舍の防災学習

- ①昨年度の振り返り 5月10日
見直しをもつ
- ②暗い中での避難体験 5月24日（火）
浸水3m体験、暗い中での避難、手引き歩行
- ③地震体験 6月22日（水）
マグニチュード音体験、ダンゴムシのポーズ
- ④トイレ体験 7月20日（水）
仮設トイレ体験
- ⑤サバイバル飯炊き体験 10月26日（水）
100円均一で購入した炊飯袋を使って
お米を炊く
- ⑥泊り体験 12月6日（火）
段ボールベッド、車中泊を体験



【トイレ体験】7/20

福祉避難所の簡易トイレを組み立て、座ってみた（長野市の許可あり）。

3 学校防災アドバイザーの関わり（学校防災アドバイザー白神晃子先生）

(1) 校内危険個所の確認と防災体制について 7月28日（木）

- ①校内を回り、危険個所についてご指導をいただいた。
 - ・重い物は下の棚へ移動する
 - ・棚のガラス戸に飛散防止フィルムを貼る
 - ・揺れで物が飛び出ないように滑り止めシートを敷く
 - ・断捨離、整頓、配置換えで安全の確保をする等



ドアをふさぐような棚の置き方、棚の上に物を積み上げた置き方についてご指摘いただいた。（調理室）

②避難全般について

- ・盲学校では耳からの情報が大切。必要なことは伝える。また、待っているときの状況についても伝えるといい。
- ・パニックになってしまう生徒がいるようなら落ち着けるものを用意しておく。防災ポーチづくりをまず職員でやってみるのもいい。
- ・引き渡し訓練は通学範囲が広いので、タイムラインを作成していく（地域の方、全盲の先生方にも入ってもらい一緒に作成することが大切）。

(2) 寄宿舍 泊り体験授業参観 12月6日（火）

〈授業概要〉

段ボールベッドは床からの高さがあることで防寒、防ウィルスに効果的であることを体験し、車中泊体験を行った。エコノミー症候群を防ぐためにも足を伸ばして寝ることの大切さ、心地よさを体験から学んだ。

〈白神先生より〉

はじめは楽しいと思うことから体験していくことがいい。一度体験していることは実際場面で役立つ。寄宿舍ならではの体験的な学習をこれからも積み重ねてほしい。



【車中泊体験】12/6

助手席に座っているより、ずっと楽！

4 事業の成果（○）及び今後の課題（△）

○校内の危険箇所を確認し、安全について意識を高めることができた。すぐできるところは改善し始めた。

△本校は長野市の福祉避難所にも指定されている。長野市の担当の方と受け入れ場所や支援の必要性など打ち合わせをする機会を早めにもちたい。

△洪水時のタイムラインについて、地域の方、全盲の職員等多くの意見をいただきながら、作成していく（来年度の評議員会に合わせてタイムラインを作成予定）。

△引き渡し訓練について実際に行くかどうかは状況によるが、迎えに来るまでどのくらい時間がかかるかの調査はしておく。

△防災ポーチづくりなどを通して防災に対する意識を高めていく（職員、PTA から）。



バケツリレーでトイレに水を流す体験（寄宿舍）



長野市福祉避難所の備蓄品を見学（寄宿舍）

（文責 教頭 丸山 妙子）

令和4年度 学校安全総合支援事業

実践報告集

発行年月 令和5年2月

発行者 長野県教育委員会

